

進路指導室から 第364号

はじめに

昨年の3月末に、文部科学省が立ち上げた「教師のバトン」への書き込み以降、教員の長時間勤務の実態が広く世の中に喧伝されるようになりました。

さて、2月12日（土）に放送されたTBSの報道特集では、「教員の“ブラック勤務”問題」が取り上げられました。「2020年度（令和2年度）公立学校教職員の人事行政状況調査」の調査結果によると、公立学校の教職員の中で精神疾患による休職者数は、5,180人に達してします。学校が多くの機能を抱え込んでしまったことが教員の長時間勤務、そして、教員の心身の不調につながっています。こうした状況を変えていくためには、教員の努力というより、教員を増やすか、現在の業務を削減しかないという内容でした。

「保護者に聞く新入生調査」について

全国大学生生活協同組合連合会では、2007年から毎年4～5月に新入生の保護者を対象とした「保護者に聞く新入生調査」を実施しています。今年は、126大学約18万人を対象とした調査結果について報告されました。なお、以下の内容については、「学研・進学情報 3月号」を参照しています。

■ 入学までかかった費用

「入学までかかった費用」は191万1700円で、前年比8万8400円増になりました。年々増加傾向にあり、調査が始まった2007年と比べると、およそ30万円の増加となっています。

自宅生は国公立141万5300円、私立180万円です。専攻別では、国公立は文科系140万3500円、理工系140万8900円、医歯薬系147万2600円です。私立は文科系164万2800円、理工系204万2500円、医歯薬系274万3800円となっています。国公立では専攻別の差がほとんどありませんが、私立では文科系と医歯薬系で100万円以上の差があります。

下宿生は国公立209万9400円、私立246万4400円です。自宅生に比べると、国公立、私立とも70万円ほど高くなっています。専攻別では、国公立は文科系202万5300円、理工系211万5800円、医歯薬系226万100円です。私立は文科系232万2800円、理工系275万4300円、医歯薬系315万7300円となっています。

受験から入学にかかった費用だけみても、最小の国公立・自宅・文科系と最大の私立・下宿・医歯薬系の間には、約175万円の差があります。

入学までかかった費用が増加している要因の一つに、「教科書・教材購入費用」があげられます。2021年は前年比1万1,100円増の21万4900円となっています。受験から入学までの費用面で予定と違って困ったことなかでも、「教科書や教材、パソコンなどの費用が高かった」が36.2%と多く、前年の10.0%から大きく上がっています。ただし、2020年までは「教科書や教材の費用が高かった」という項目を「教科書や教材、パソコンなどの費用が高かった」に変更しています。そのため、以前は「パソコン」を考慮しなかったのに対し、パソコンを考慮に入れたために数値が跳ね上がる要因になったとも考えられます。

一方、費用面で準備・工夫したことは「学資保険に入っていた・進学用の貯金をしていた」が55.7%と過半数を占めています。続いて、「奨学金を申請した（する）」が32.7%、「貯金を切り崩した」が31.7%となっています。「奨学金を申請した」は、2015年以降は30%前半で推移しており、大きな変化はありません。

〔入学までにかかった費用（国公立/私立、住まい別）〕

内 容	国 公 立 計			私 立 大 計		
	計	自宅生	下宿生	計	自宅生	下宿生
A 出願をするためにかかった費用	115,600	118,300	114,100	144,100	146,700	142,500
B 受験のための費用	60,800	28,200	76,800	45,000	28,600	71,400
C 学校納付金 ① 入学した大学	646,200	644,500	648,100	966,000	955,500	987,600
C 学校納付金 ② 入学しなかった大学	278,700	280,900	276,800	296,400	296,200	298,700
D 合格発表や入学手続きのための費用	37,100	8,700	51,200	25,000	11,500	47,500
E 入学式出席のための費用	31,100	15,100	43,100	24,600	15,200	44,200
F 教科書・教材購入費用	232,200	214,800	242,800	190,600	181,000	210,200
G 住まい探しの費用	210,400	-	215,100	256,200	-	260,700
H 生活用品購入費用	219,900	94,500	295,000	158,500	84,900	288,100
I その他の費用	280,000	142,600	353,800	184,700	119,100	299,300
合 計	1,834,300	1,415,300	2,099,400	2,070,700	1,800,000	2,464,400

※ 「各費目」の平均値は0と無回答を除いた有額返金。

※ 「合計」の平均額は0が反映されるため、「各費目」の平均額合計とは必ずしも一致しない。

■ 大学に進学させた理由

「子どもを大学に進学させた」理由については、「本人の希望が強かったから」が86.4%と大半を占めています。「いろいろな経験をさせたいから」が56.1%。「大学卒の学歴が必要だから」が43.0%。「人間関係を広げさせたいから」が42.9%、「専門的知識を身につけさせたいから」が39.4%と続いています。これらの項目は、いずれも2019年の前回調査よりも増加しています。特に「人間関係を広げさせたいから」は前回比10.3ポイント、「いろいろな経験をさせたいから」は前回比8.2ポイントの大幅な増加となりました。

また、大学に対して期待することは、「専門的知識の教育強化」が71.5%、「社会人としての一般教養の教育強化」が55.2%、「就職のための支援強化」が54.1%、「健全な大学生活のための教育や指導」が43.0%と続いています。特に、2015年から減少が続いていた「就職のための支援強化」が前回比3.2ポイント増と増加に転じたことが特徴的です。

〔大学に進学させた理由〕

内 容	国公立計		
	17年	19年	21年
本人の希望が強かったから	85.0	83.5	86.4
大学卒の学歴が必要だから	41.9	40.8	43.0
専門的知識を身につけさせたいから	35.3	34.6	39.4
いろいろな経験をさせたいから	47.5	47.9	56.1
人間関係を広げさせたいから	33.5	32.6	42.9
社会に出るのは不安だから	2.5	2.6	3.0
周囲が行くから	1.2	1.2	1.8
学校や知人が勧めるから	2.2	2.1	2.1
行くのが当たり前だから	5.3	4.8	6.7
その他	0.6	0.6	0.5
なんとなく・理由はない	0.1	0.1	0.2
無回答	1.6	2.7	0.7

※ 18年と20年は調査していない。

〔大学に対して期待すること〕

内 容	19年	21年
専門知識の教育強化	60.2	71.5
基礎学力の教育強化	22.8	34.3
研究実績の向上	12.3	16.5
社会人としての一般教養の教育強化	47.3	55.2
国際人としてのグローバル教育	31.0	32.4
留学制度の充実		11.2
知名度の向上	6.0	6.4
研究のための環境整備	13.8	18.2
福利厚生のための環境整備	7.1	10.0
健全な大学生活を送るための教育や指導	32.3	43.0
就職のための支援強化	50.9	54.1
公務員・会計士・司法試験などの資格取得講義の充実		22.7
教養・キャリアアッププラン講座などの充実		21.6
授業料減免や奨学金などの経済的支援	23.3	27.1
その他	0.5	0.6
特に期待することはない	1.3	1.7
無回答	3.2	1.0

※ 21年から「留学制度の充実」「公務員・会計士・司法試験講座などの資格取得の講座」「教養・キャリアアッププラン講座などの充実」を追加した。

※ 20年は調査していない。

■ 大学生活を始めるにあたって心配なこと

大学生活を始めるにあたって心配なことは、「授業形態（対面・オンライン）のこと」が57.9%と最も高くなりました。「新型コロナウイルス感染症への対応」は52.3%で前年より減少したものの、依然として高い数値です。続いて、「友達付き合いなど人間関係のこと」が前年比1.7ポイント増の50.1%となりました。

また、自宅生が44.8%に対し、下宿生は55.5%と10ポイント以上高くなっています。人間関係の経験値を高めることは大学に期待される機能の1つです。オンライン授業では友達が作りにくいとが伝えられていますが、これができない恐れがあります。

詳細については、全国大学生活協同組合連合会のホームページで参考にしてください。

〔大学生活を始めるにあたって心配なこと〕

内 容	20年	21年	21年	
			自宅生	下宿生
授業内容や単位のこと	51.7	38.0	41.3	34.9
授業形態（対面・オンライン）のこと		57.9	61.5	55.3
就職や将来のこと	46.8	37.3	41.1	34.0
友達付き合いなど人間関係のこと	48.4	50.1	44.8	55.5
生活費など経済面のこと	29.5	26.4	15.3	36.2
事故・病気・けがなど健康面のこと	39.6	37.7	15.8	58.6
食事や日常生活全般のこと	35.8	33.8	6.5	59.2
新型コロナウイルス感染症への対応	63.5	52.3	48.7	56.2
その他	0.6	0.7	0.7	0.7
特に心配なことはない	5.0	4.8	7.3	2.3
無回答	1.0	0.8	1.0	0.6

※ 20年から「新型コロナウイルス感染症への対応」を追加した

※ 20年までの「大学出の授業や単位のこと」は21年から「授業内容や単位のこと」に変更した

※ 21年から「授業形態（対面・オンライン）のこと」を追加した

終わりに

広島県では感染者数がやや減少傾向にあります。国内での新型コロナウイルス感染症の終息の兆しはまだはっきりと見えませんが、春に向けてさまざまな制約がなくなることを願っています。

（文責：進路指導部 池本 邦彦）